

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800250		
法人名	株式会社JAWA		
事業所名	街かどケアホームりんか		
所在地	山口県岩国市川口町1-8-6		
自己評価作成日	平成24年9月22日	評価結果市町受理日	平成25年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年10月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムスケジュールにとらわれず、起きたいときにおき、食べたいときに食べ、入浴したいときに入浴する等、個人の生活リズム(スタイル)を重んじている。</li> <li>・イベントをふんだんに取り入れる事で日々の生活を楽しくしていただけるよう、また、遊び心をもって生活にメリハリをつけるよう努力している。</li> <li>・食に関しても全国ネットにより食材を取り入れ、旬の美味しいものを食べていただけるようにしている。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が「自分のリズム、自分らしい生活を」を送ることができるように、起床や就寝時間、食事や入浴などは時間にとらわれない本人のペースで過ごせるよう支援されています。事業所独自のアセスメント様式を活用され、職員は利用者一人ひとりの「自分らしさの理由」を見つけ、安全で安心できる快適な暮らしを目標にサービスを提供されています。理念にあるホスピタリティ(思いやり)の精神を常に意識され、理念の実践に取り組むように努めておられます。食事は、利用者の毎日の楽しみであり、美味しく食べられるよう旬の食材の購入や、全国各地の特産品を取り寄せています。災害時における地域住民との協力体制について運営推進会議で話し合わせ、地域の人の避難訓練への参加や緊急連絡網へ加入などで築いておられます。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	JAWAグループの理念があり、職員は新人研修でしっかり理念について研修を行っており、その理念を基に実践に取り組んでいる。	職員は新任研修で本部の教育担当から理念について学んでいる。理念であるホスピタリティ(思いやり)の精神を基に、日々のケアの中で、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているし、地域の行事にも利用者と参加している。	自治会に加入し、職員は年2回地域の清掃作業に参加している。利用者は、岩国まつりや夏の夜市に参加する他、えびす祭りの子供みこしが来訪し、利用者がお菓子を手渡すなど交流している。年に3回、地域向けの事業所便りを発行している。事業所内にある岩盤浴を地域の人々に開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内回覧を通じて、りんか便りをだしており、その中に認知症を理解していただくことと記事を掲載している。また、りんかが地域の拠点となるよう運営推進会議でも話し合っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	すべての職員に外部評価の意味を説明し理解してもらっている。	管理者は、月1回の定例会議で外部評価の意義を職員に説明し理解した上で、自己評価を職員全員で実施している。自己評価を通して、日々のケアの振り返りを行い、前回の外部評価結果についても、職員全員で話し合い、改善に取り組むように努めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者の状態等を話させていただき、理解していただいている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、行事、外部評価への取組状況等について報告し、話し合っている。地域とのつながり、防火訓練などについて意見交換をし、事業所前の側溝の衛生問題の解決など、意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護課・社会課との行き来があり、相談にのっていただいたり、指導を受けたりしている。	市の担当課とは、介護保険の相談等で連絡を取るなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に、相談や情報交換を行っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修中にも身体拘束についての研修はうけている。玄関も鍵を掛けることなくいつでも外出できるようになっている。	身体拘束については、職員全員が正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに努めている。スピーチロックに気をつけている。日中は玄関は施錠せず、職員と一緒に外出するなどしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修中にも虐待についての研修はうけているし、理念を考えるとありえない。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には利用して頂いている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をかけ説明させていただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口について説明をさせていただいているし、近況・面会時に話をしやすい雰囲気づくりに気を配っている。	契約時に、苦情や相談の受付体制や外部機関、処理手続きを説明している。家族の面会時には担当者が利用者の状況を詳しく伝え、家族から意見を聞いている。毎月1回管理者が自筆の近況報告に写真を添えて送付する他、年1回の家族会ではソーマン流しを楽しむなど馴染みの関係をつくり、意見や要望等が出やすいように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で職員からの声を聞き、運営に役立っている。	月1回の全体会議の中で職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。日々のケアの中では各ユニットリーダーから意見を聴取し、主要な案件については、法人担当者に伝え、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を整え、働きやすい職場を目指している		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修期間が過ぎても独り立ちできるまで現任職員が見守っている。	外部研修は情報提供をして、希望者が受講できるように配慮している。新人職員は、研修後に先輩職員が同行して働きながら学べるよう支援している。内部研修は、会議の中で勉強会を実施しているが十分とはいえない。	・計画的な内外の研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会にも加入しており、相互の訪問、情報交換もある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気の中ご本人の要望が聞けるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族ともしっかり会話を重ね、信頼関係を築きニーズが把握できるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の話の中でどんな支援を受けたいか、何を必要とされているかを見極めるようしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりに寄り添い、共に笑い、遊び、悩み、友人や家族のような関係を築けるよう努力している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のニーズを電話・FAX・メールの近況等でご家族にお伝えしご本人にとって快適に過ごしていただけるよう情報を共有している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り関係が途絶えないよう、ご本人からの要望があれば、答えられるようにしている。	友人や教え子の来訪、年賀状の交換、地元のスーパーでの買物、馴染みの美容院の利用、友人とはコンサートやカラオケに行き、楽しんでいる。家族の協力を得ての外出、お正月やお盆への一時帰宅、結婚式に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶などの場を作り、自然と利用者同士が係わられるようにしている。時には、職員が繋ぎ役になることもある。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族にも年賀状・暑中見舞いはお出ししており、毎夏恒例のどうもこしもお配りしている。時には来訪してこられるご家族もおられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話しに傾聴し、ニーズに答えられるよう努めている。困難な場合は会議で本人本位になるよう検討している。	事業所独自のアセスメントシートを活用し、利用者が快適に暮らせるための希望や意向の把握に努めている。利用者の話す言葉などはケース記録に記録し、その中から本人の意向を把握するよう努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の暮らしについては、ケアマネ・ご家族からの情報で十分把握している。その方の生活スタイルそのまま生活していただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り等で現状は十分把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の要望や意見を聞き、又日々の記録を活用しケアプランをたて、会議においても意見を交わし、作成している。	職員全員で2ヶ月毎にカンファレンスを開催し、利用者の要望・状態、訪問時や電話での家族からの意見、かかりつけ医の意見を参考にして話し合い、計画を作成している。2ヶ月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月毎の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人ケースがあり、日々の様子を記入している。状況・変化が見られた時は、ご家族・職員間で情報を共有し、現状に応じた介護計画を作成している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに応じたサービスを提供しており、病院受診・買い物・外食・ドライブ・野球観戦友人との外出等ご利用者の様々な要望に応じた外出支援をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向や必要性に応じ、地域の文化的行事等に参加している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医があれば継続して受診できるよう支援している。	事業所の協力医療機関の他に、利用者や家族が希望する医療機関がかかりつけ医となっている。2、3週間毎の受診には職員が同行し、診察結果は家族に報告している。他科受診については、家族の協力を得て、受診の支援をしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状況・記録を基に医師と相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携室と連絡を密にとり、早期退院が出来るよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される時は早い段階から家族・医師と話し合いの方針を共有している。	契約時に、重度化した場合に事業所が対応できることを家族に説明をしている。重度化した場合には、家族と医師、関係者で話し合い、職員全員で方針を共有し、取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりに対して、リスクを職員間で共有しており、環境整備・見守り・	事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、毎月の全体会議で対応策を話し合い、転倒の多いケースはケアプランに反映するなど、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。緊急対応のマニュアルの作成や救急救命講習へ参加しているが、全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施までには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下、入居者の方も交え防災訓練をおこなっている。また運営推進会議でも町内の皆さんの協力もお願いしている。	年に2回、消防署の協力で夜間想定を含めた避難訓練や通報訓練、消火訓練を利用者と一緒に行っている。職員の緊急連絡網を作成し、災害時における新人職員への研修を実施している。運営推進会議で議題として取り上げ、地域住民の避難訓練への参加や緊急連絡網に加入してもらうなど、協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を否定することなく、共感し誇りを失わないよう言葉がけをしている。また排泄介助などはプライバシーに十分留意している。	研修で学ぶほか、理念に沿ったケアで、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の些細な事、たとえば、冷たい飲み物と熱い飲み物、服の選び方等入居者の意見を聞き自己決定できるように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きなときに起き、好きなときに寝、食べたいときに食べる等入居者個々の生活リズムで動いている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容はご本人の行きつけがあれば行っていただくし、職員のほうで定期的に声掛けさせていただくこともある。リビングへ出られるときは、鏡の前で髪を整えさせていただいたり配慮している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後には入居者の方からお手伝いを希望されるのでテーブルを拭いていただいたりする。食事と一緒に食べさせていただき、談笑している。	旬の食材や全国各地の特産品を利用した献立を作り、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者と職員は同じものを一緒に食べ、職員は利用者が食事を楽しめるように支援している。誕生日には、外食で本人が食べたいものを食べる他、利用者はおやつ作り(マドレーヌ、ロールケーキ、ぜんざい、おはぎ、お汁粉等)も楽しみにしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態に合わせた食事量や内容に工夫している。又水分についても、しっかり確保できるようこえ掛けを行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方は居室にて行われている。介助が必要な方は職員がお手伝いさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全職員が排泄リズムを把握することで、少しでもトイレでの排泄を増やすよう努力している。	排泄表を活用して利用者一人ひとりのパターンを把握し、声かけ誘導で、トイレで排泄できるよう支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の周期、便の状態等職員は把握している。食事を工夫したり、水分摂取の声かけもさせていただいているが、それでも難しい方には薬の服用も行わせていただいている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間は決めず、入りたいときにはいつまで待たせている。	入浴はいつでも可能で、一人ひとりゆっくりと入浴で楽しめるように支援している。利用者の状態によりシャワー浴や清拭などへの対応をする他、入浴したくない場合には、時間をずらしたり、声かけの工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムが違うので就寝される時間もまちまちである。寝たい時にねられている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員は服薬表をみることで各々の薬の目的・用法・副作用をしっている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベントを通してすこしでもハリのある楽しい日々を過ごしていただきたいと努力している。「何かしたい」という気持ちを大事に思いご本人の力量に応じたお手伝いもして頂いている。	花の手入れ、活け花、書写(写経)、ゲーム(輪投げ等)カラオケ、新聞・雑誌読み、体操、おやつ作り、買い物、野球観戦など利用者一人ひとりの楽しみ事や活躍できる場面をつくり、その人らしく過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントでも外出の機会が増えている。今後は個々行ってみたいところ、行きたいところにいけるよう支援していきたい。	近隣への散歩、買い物、季節の花見(桜、ショウブ、バラ等)、喫茶店、ドライブ(錦帯橋、潮風公園等)に出かけている。家族や友人の協力を得て、買物や外食、コンサート、墓参りなど、利用者の希望に沿った支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらでお金をお預かりさせていただいている方もいれば、ご自分で管理されている方もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをされる方もいらっしゃる、携帯電話を持ってられる方もいる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングとキッチンが対面式になっており広さも十分ある。広々とした空間の中でゆったりと過ごされている。	リビングは広く、明るく、ベランダ側の大きな窓から川を眺めることができる。ソファに座りテレビを視たり、テーブルで作業したり、対面式のキッチンで食事の準備をするなど、思い思いに過ごしている様子が伺えた。温度、湿度、換気に配慮して、利用者が居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、TV前のソファ等好きなときに自由に座られ、会話・TVを楽しまれている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花の好きな方は居室に鉢を置いたり、使い慣れた家具を置いたりして居心地良く過ごせるよう工夫させていただいている。	使い慣れた衣服やたんす、冷蔵庫、ぬいぐるみ、写真や絵画、位牌などを持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床の材質もすべて統一し、つまずきのないようにしてある。トイレもその方のレベルにあわせ可動式の手すりを設置している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 街かどケアホームりんか

作成日: 平成 25年 3月 15日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	外部研修に関しては、研修内容に適した職員に研修を受けてもらっているが、内部研修については、まだまだ不十分な点がある。	計画的に研修をおこなう。	年間計画を作成し、行事予定と共に研修の計画・内容を組み入れる。(高齢者虐待防止・身体拘束・緊急時対応等。)	1年
2	27	本人の楽しみ(趣味)があるにもかかわらず、介護計画に組み入れられていないケースがある。	本人の楽しみ(趣味)も介護計画に入れ、より楽しく暮らしていただけるよう支援する。	ケアカンファレンス時、それぞれの趣味・嗜好・楽しみについて検討しなおし、介護計画に取り入れる。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。